

いのちの授業【国語科】学習指導案

指導者 〇

1. 本時の指導

(1) 題材 詩「千の風になって」

(2) 目標 ①詩のキーワードにこだわり注目することで、想像力をふくらませ、思考を深める

(国語科)

②詩中の「風」という言葉を基に、「死」「命の再生」「いきること」について深く考える。

(いのちの授業)

(3)指導過程

	学習活動(☆)	主な発問(○)と指示(△)	指導上の留意点(・)と評価(☆)
導入	グループになって、自分が生活の中で見聞きした「死」について語り合う。	△ プリントの①の課題を読み、記入欄にメモしましょう。 ○自分が生活の中で見聞きした「死」について、グループの友達に話してあげてください。 △発表できる人はクラスの友達に聴かせてください。	・学習プリントを配布する ・グループは充分話ができるような4人程度のグループとする。 ・話し合いは、無理なく話せる生徒だけが、自由な雰囲気の中で話して聴かせる。 ・聴いている方は、話している友達の気持ちに共感しながらゆったりと聴く。あれこれ質問したり聞き出したりしないようにする。 ・自己開示をしたいところだが、デリケートな問題なので、無理なようなら速やかに中止する。
展開	「千の風になって」の詩の中の言葉風に注目して、想像力をふくらませながら詩を読む。	△「風」というキーワードについて考えてみましょう。 (丸数字は学習プリントに合わせた発問。「・」は予想される反応) ①「風」から何をイメージしますか。 ・ 自由 ・ 地球の息吹(生命) △黙読しましょう。 ②この詩の中で「風」は何を表しているのでしょうか。 ・ 死んだ人 ・ 死んだ人が姿を変えたもの ③ 死んだら「千の風になる」とはどういうことを表しているのでしょうか。 ・ 死んでも無にならない。 ・ 死んでも存在は形を変えて生き続ける。	・詩を黒板に貼る。 ・各自黙読が終了した頃を見計らって、教師が朗読する。 ・プリントを配布する。 ・自分の考えに自信が持てない生徒が予想されるので、ある程度プリントに書き込みをさせてから発言を求める。 ・「風」という言葉に込められた意味を丁寧に考えることによって詩を読み解いていく。 ・この詩は死者からのメッセージであることを気づかせる。

ま と め	「風」をキーワードにして詩に込められた作者の思いを感じ、「千の風になって」の感想を書く	④ この詩で作者が伝えたいことは何でしょう。 ・いつまでも死を嘆かないでほしい。 ・死んでも風やいろいろなものに姿を変えて見守っている。 ・自分も一生懸命生きなくてはならない。 ・いのちの重さ。 △この詩を味わっての感想や授業を通して感じたこと考えたことを書きましょう。	☆本時の学習の理解の度合いを把握する発問 ・時間を多めにとり、思考を深めさせる。 ・自分なりの言葉で「死・いのち・再生」について感じ取れたかを書き込みで把握する。 ・数名に発表させる。
い の ち の 授 業 の ま と め	資料の説明を聞き、改めていのちや、懸命に生きることを深く考える。	△「千の風になって」に込められた深い思いを知ってほしいと思います。	・資料を配布し、この詩のできた背景や、世界各国の人がどのような思いでこの詩を読んでいるのかを知る。 ・詩を黙読しながら終わる。

(4) 評価

- ① 「風」という言葉を考えることによって、死が終わりではないこと、いのちが風、そして世界を取り巻く様々なものに姿を変えて、残された者を見守っていることをイメージすることができたか。
- ② 死者からのメッセージであるこの詩から、いのちや懸命に生きることの大切さを気づくことができたか。